

ニューズレター



(生物多様性センター所蔵標本電子画像より)



CONTENTS

- 環境省内生物標本情報共有…………… P2
データベースの構築
普及啓発用生物標本の作製・公開
- GBIFワークショップ開催…………… P3
-トピックス- “生物多様性保全施策に
関する最近の動き”
- モニタリングサイト1000…………… P4
シンポジウムの開催結果
職員向け “GIS講習会” の開催
- 第9回自然系調査研究機関
連絡会議開催のお知らせ…………… P5
- 「生物多様性まつり 2006」…………… P6
生き物観察シリーズイベント
- 生物多様性センターガイド…………… P7
展示ロビー紹介(第3回)
- 人の動き・センターの動き…………… P8

生物多様性センター 標本関連事業について

生物多様性センターでは1998年の設立当初より、標本資料(動植物標本の収集・保管・利活用)に関する業務を行ってきました。昆虫類、維管束植物の標本を中心に2006年11月現在で約6万点の生物標本が収蔵されています。生物多様性センターの収蔵施設については前号のニューズレター(20号)で紹介しておりますので、ご参照ください。

今回は生物多様性センターで現在実施中、または実施予定の標本関連業務についてご紹介します。

環境省内生物標本情報共有データベースの構築

生物多様性センター以外の環境省関連施設(全国各地に点在する野生生物保護センター、国立公園のビジターセンターなど)のうち、20を超える施設に生物遺体を含む標本資料が保管されています。これらの施設では、一般の方々から野生生物全般に関わるセンターと認識されている場合も多いため、保護業務の対象となる希少野生動植物に限らず、近隣で発見された傷病個体や死体が持ち込まれることが少なからずあります。そのうちの多くは施設内で冷凍保管され、一部は来訪者への解説や普及啓発用に剥製化され展示などに利用されています。

現在これらの生物遺体(標本資料)の保管および保有情報の管理等は各施設ごとに行っているため、国内希少野生動植物種をはじめとする貴重な生物遺体・標本資料について、環境省関連施設全体でどの程度保有しているか、リアル

タイムの情報共有・更新がなされていない状況です。そこで、生物多様性センターでは、環境省担当部局の職員を含め各施設の担当者が情報を共有し、生物遺体の適正な保管、普及啓発活動、保護管理計画などへの利活用を図ることを目的として、環境省内生物標本情報共有データベースの構築を行っています。

本年度は各施設に保管されている生物遺体を含む標本資料のデータをとりまとめ、情報を共有した上で、次年度以降にセンターホームページ等により、一般の方にも閲覧可能なデータベースを公開する予定で準備を進めています。また、このようなデータベースの構築作業を通じ、本号3ページ目でご紹介するGBIF(地球規模生物多様性情報機構)との連携方策についても検討を進めていくこととしています。

普及啓発用生物標本の作製・公開

今年のGWと夏休みに開催したイベントで実物をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、生物多様性センターでは収蔵庫内に保管された生物標本以外にも、イベントや展示スペースにて生物多様性のおもしろさを来館者の皆様にお伝えするための普及啓発用標本を展示しております。一例を挙げれば、擬態や渡りなど独特の生態をもっているものや、生息環境ごとにみられる昆虫を集めたもの、また昆虫の種内多様性を表現した標本などがあります。また、実際に手で触れて体験することができるタヌキやハクビシンなどの毛皮標本も展示しています。

さらに、今年はシャンハイガニや外国産クワガタなど本来は日本に生息していなかった外来生物を知ってもらうために、乾燥した個体を樹脂に封入して体の表裏を自由に観察できるようにした封入標本も作製しました。これらは空港などで実際に積荷に付着していたものや人によって持ち込まれた外来生物の個体を標本化しています。外来生



物に関しては、今後各地の駆除事業等で捕獲された個体等の標本化を進め、外来生物問題に関する普及啓発用展示などに活用していく予定です。



GBIFワークショップ開催

10月30日(月)、東京においてGBIF(地球規模生物多様性情報機構:Global Biodiversity Information Facility)ワークショップ「生物多様性インフォマティクスを創出する」が開催されました。

GBIFとは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で分散的に収集し、ネットワークを通じて全世界に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトであり、日本政府は2001年の設立当初からこの活動に参画しています。

(GBIF JAPANホームページ
<http://bio.tokyo.jst.go.jp/GBIF/gbif/japanese/02/01.html>
より)

今回のワークショップはGBIFが来年から本格運用期である第2期にはいることから、動植物、微生物、菌類等の広範な生物種、生物標本に関するデータに限らず、生態系のデータから遺伝子、たんぱく質レベルのデータに至るまでの生物多様性に関するあらゆる情報に関して、国内外の専門家による研究交流とGBIFの活動のさらなる発展に貢献し、国内研究コミュニティを広げることを目指して開催されたものです。



環境省からは黒田大臣官房審議官が出席し、「生物多様性情報と環境省-現状と方向性-」というテー

マで、生物多様性国家戦略、生物多様性センターの調査・情報・標本関連業務及び今後のGBIFとの連携について講演を行いました。

環境省におけるGBIFとの連携方針としては、まず生物多様性センターで収蔵している標本情報データベース等の一次データの登録を進めることとしています。さらに、今後自然環境保全基礎調査等で得られた生物の調査結果について、GBIFを通じた国内外の情報共有・連携方策について、検討を行っていく予定です。

トピックス

生物多様性保全施策に関する最近の動き

● 第3次環境基本計画の策定

環境基本法に基づき、わが国の環境保全に関する考え方や施策をまとめたものが「環境基本計画」です。本年4月、「環境から拓く新たなゆたかさへの道」をサブテーマとした第3次計画が策定されました。計画の長期目標である「循環」、「共生」、「参加」、「国際的取組」は、環境問題に関するキーワードとして浸透してきていますが、新・基本計画では新たに、環境・経済・社会的側面の統合的な向上、環境保全の人、地域づくり、計画の進捗状況を把握するための指標等が盛り込まれています。特に、生物多様性に関する指標として、「自然環境保全基礎調査の植生自然度」「哺乳類等の分類群における絶滅のおそれのある種数の割合」等があげられています。センターでは本計画の内容を踏まえながら、環境保全の基礎となるデータ収集を行っていく予定です。

(第3次環境基本計画

HP:http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/thirdplan01.html)

● 新・生物多様性国家戦略の見直し

本年8月から「生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会」において、2002年に策定された国家戦略の見直しに向けた議論が始まりました。来年2月までの間に8回程度の会合を開催し、「保護地域」「里地里山」等テーマごとの現状分析、NGO ヒアリング等が行われます。第3次国家戦略は中央環境審議会での審議を経て、来年の秋頃に策定される予定です。検討経緯や懇談会資料等はセンターのホームページに掲載されていますのでご参照下さい。

(<http://www.biodic.go.jp/cbd/2006/index.html>)



モニタリングサイト1000シンポジウムの開催結果について

当センター主催の標記シンポジウムが、10月29日に東京の発明会館にて開催されました。本シンポジウムの趣旨は、「重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)」について、その背景や意義を紹介するとともに、今後の我が国における自然環境モニタリングの方向性を議論するというものでした。



プログラムの始めでは北野大氏(明治大学)の特別講演が行われ、生態系の変化を環境問題として意識することの大切さについて、ユーモアを交えわかりやすくお話いただきました。その次の講演として、中静徹氏(東北大学)より生態系の変化をとらえる世界的な枠組みの動向について説明をいただきました。どちらの講演もモニタリングを考えていく上で欠かせない視点を提供して下さいました。当センターからは、モニタリングサイト1000の実施機関として、事業概要の説明を行いました。

後半のパネルディスカッションでは、5名のパネラーの方々(金井裕氏(日本野鳥の会)、亀崎直樹氏(日本ウミガメ協賛会)、野島哲氏(九州大学)、日浦勉氏(北海道大学))から、ご自身の係わる調査分野の状況について報告いただいたのち、小林光座長(自然環境研究センター)の進行のもと、「生態系モニタリングの意義と今後の展望」をテーマに意見交換を行いました。議論が進むにつれ、調査体制や各パネラーの立場の違いを踏まえながらも、調査をする上での共通の課題を垣間見ることができました。



当センターとしては引き続きモニタリングサイト1000事業の充実・推進を図っていく予定であり関係者のご協力をお願い申し上げますとともに、本シンポジウムの開催に当たり、多くの協力をいただきました方々にお礼を申し上げます。

職員向け“GIS講習会”の開催

7月10日から12日までの3日間、生物多様性センターにおいて環境省の自然環境保全担当の職員を対象としてGIS講習会を実施しました。生物多様性センターでは自然環境保全基礎調査等の調査成果をGISデータとして取りまとめた自然環境情報GISを整備して一般に公開していますが、この講習会はこれらの環境情報を環境省の業務において活用するための技術を習得することを目的としています。平成11年度から実施しているこの講習会は今回は3年ぶりの開催で、生物多様性センター外からは環境省自然環境局

や地方環境事務所から6名の職員が参加しました。参加した職員の多くは、国立公園の管理や国の自然環境保全施策の計画策定などの業務を担当しており、基礎資料となる環境情報の有効な活用技術を必要としていましたが、多忙な日常業務の合間での技術習得は困難でした。受講生はGISソフトウェアの操作方法について実習を行うと共に、自然環境調査や国立公園管理におけるGISの活用事例について学びました。

第9回自然系調査研究機関連絡会議開催のお知らせ

自然系調査研究機関連絡会議(通称:NORNAC)は、国や都道府県等の自然系(自然環境保全、野生動植物保全等)の調査研究を行っている調査研究機関の情報交換、情報共有化を促進し、科学的知見に基づく自然環境施策を推進することを目的に平成10年11月に発足し、年1回、全国各地で開催しています。

今年度は11月30日、12月1日の両日に、岩手県環境保健研究センターとの共催により、岩手県盛岡市において開催します。NORNACは調査研究・事例発表会(一般参加自由)と、連絡会議(NORNAC構成団体参加)の2部構成となっており、調査研究・事例発表会では、講演会及び14機関から15題が報告される予定です(下記プログラム参照)。

調査研究・事例発表会はご自由に参加いただけます(参加費無料、申込不要)。皆様のお越しをお待ちしております。

<調査研究・事例発表会>

◆日時 平成18年11月30日(日)13:00~18:40

◆場所 いわて県民情報交流センター(アイーナ) 8階 803会議室(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)

※昨年までの様子や詳細につきましては下記ホームページをご参照下さい。

URL http://www.biodic.go.jp/relatedinst/rinst_main.html

◇問い合わせ◇ 岩手県環境保健研究センター (担当:前田)

〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1地割36-1
TEL:019-656-5666 FAX:019-656-5667

<調査研究・事例発表会プログラム(予定)>

| | | |
|-------------|---|---------------------------|
| 12:00~ | 受付開始 | |
| 13:00~13:10 | 開会あいさつ | |
| 13:10~14:10 | 講演会 | |
| | 「温原の送粉共生系と周辺環境」 | 鈴木 まほろ(岩手県立博物館) |
| | 「岩手県の希少淡水魚(仮)」 | 竹内 基(岩手県立福岡高等学校) |
| 14:10~14:30 | 休憩 | |
| 14:30~18:30 | 調査研究・事例発表会 | |
| 14:30~14:45 | 「目視によるブナ科樹木4樹種の結実状況調査について」 | 水谷 瑞希・多田 雅充(福井県自然保護センター) |
| 14:45~15:00 | 「福岡市近郊里山林における林床植生と土壌動物との関係」 | 須田 隆一(福岡県保健環境研究所) |
| 15:00~15:15 | 「石川県白山麓における里地里山の変貌と身近な生き物の生息状況」 | 小川 弘司(石川県白山自然保護センター) |
| 15:15~15:30 | 「愛媛県における里地調査の現状と課題」 | 村上 裕(愛媛県立衛生環境研究所) |
| 15:30~15:45 | 「里山の自然は守れるかーゼンタナゴ保全の試みー」 | 小澤 洋一(岩手県環境保健研究センター) |
| 15:45~16:00 | 「信州の里山の魅力と環境保全のための課題」 | 高樫 均(長野県環境保全研究所) |
| 16:00~16:15 | 「東京湾における環境の変化と底棲魚介類群集の変遷」 | 堀口 敏宏(独立行政法人国立環境研究所) |
| 16:15~16:30 | 休憩 | |
| 16:30~16:45 | 「富士山北西麓本栖高原におけるチョウ類の環境選択様式と保全」 | 北原 正彦・早見 正一(山梨県環境科学研究所) |
| 16:45~17:00 | 「石川県の砂浜海岸における生態学的基礎調査ーシギ・チドリ類の飛来数と餌生物の生息量ー」 | 坂井 寛一(石川県のと海洋ふれあいセンター) |
| 17:00~17:15 | 「埼玉県水田地帯におけるサギ類の分布とその条件」 | 嶋田 知英(埼玉県環境科学国際センター) |
| 17:15~17:30 | 「大阪府に生息するニホンジカの遺伝的多様性」 | 川井 裕史(大阪府立食とみどりの総合技術センター) |
| 17:30~17:45 | 「北海道における鳥獣保護区の自然環境」 | 玉田 克巳(北海道環境科学研究所) |
| 17:45~18:00 | 「生物生息ポテンシャルマップによるネットワーク形成手法調査とその活用」 | 石井 亘(大阪府立食とみどりの総合技術センター) |
| 18:00~18:15 | 「丹沢大山総合調査で明らかになったこと」 | 田村 淳(神奈川県自然環境保全センター) |
| 18:15~18:30 | 「モニタリングサイト1000について」 | 阪口 法明(環境省生物多様性センター) |
| 18:30~18:40 | 閉会あいさつ | |

「生物多様性まつり 2006」 を開催しました

生物多様性センターでは去る8月6日、毎年恒例となっている夏のイベント「生物多様性まつり」を開催しました。このイベントは、生物多様性保全に関する普及啓発事業の一環として毎年1回実施しているもので、今回で7回目の開催となります。



開催プログラムは、毎年子供たちに人気の「昆虫標本づくり」や、「草花おしばづくり」「生き物ウォッチング」といった3つの予約制講座と、「収蔵庫ツアー」「昆虫カード探し」「クイズラリー」等8種類の自由に参加できる体験型イベント・各種展示を行いました。

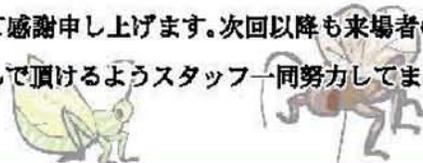
当日は天候にも恵まれ、1日の来場としては過去最高の470名あまりの来場者で賑わいました。特に、ゴールデンウィークイベントでも好評だった「カード探し」は、昆虫カード第2弾の公開と相まって行列が出来るほどの人気でした。子供たちにとってはカード収集を通じて昆虫の生態について楽しく学習できたようです。

当日実施したアンケートの結果、「まつりに参加して楽しかった」「また参加したい」といった声を多数いただきました。また、



まつりでのみ一般公開される
標本収蔵庫

「勉強になった」「今後自由研究でセンターを利用したい」というご意見もあり、多様性まつりへの参加を通じて生物の不思議さを体感し、自然をより一層身近なものに感じてもらうことが出来たのではないのでしょうか。多様性まつりに参加されました来場者の皆様にはこの場をかりて感謝申し上げます。次回以降も来場者の方々に楽しんで頂けるようスタッフ一同努力してまいります。



生き物観察シリーズイベントを 開催しました



『夜のいきもの探検隊』

生物多様性センターでは、自然観察を通じて生物多様性への理解を深めてもらうことを目的に「生き物観察シリーズ」イベントを企画し、7月15日に第1弾「夜のいきもの探検隊」、9月23日に第2弾「はらっぱむしむし探偵団」、10月22日に第3弾「どんぐりVS松ぼっくり」を開催しました。

第1弾「夜のいきもの探検隊」、9月23日に第2弾「はらっぱむしむし探偵団」、10月22日に第3弾「ど



『はらっぱむしむし探偵団』

んぐりVS松ぼっくり」を開催しました。



第1弾はコウモリの観察をテーマに、山梨県立富士湧水の里水族館及び動物写真家中川雄三氏のご協力を頂き、忍野村桂川にて実施しました。当日は、川面に多くのモモジロコウモリが飛来し、初めて間近で見る野生のコウモリに参加者は驚きの声をあげていました。



『どんぐり VS 松ぼっくり』

第2弾は、身近な環境に生息する虫の観察をテーマに、生物多様性センター敷地内で実施しました。採集前に予想して描いた虫と実物の違いを観察したり、つかまえたバッタのジャンプ力を測定したりして、身近な虫たちへの興味をもってもらいました。

第3弾は、秋の木の実をテーマに、生物多様性センター及びその周辺で実施しました。採集したどんぐりの種類の特定や、チーム対抗によるどんぐり隠しゲームを通じて植物の種子散布戦略を学習してもらいました。

生物多様性センターガイド 第3回 展示ロビー紹介

生物多様性センター施設内の展示ロビーでは、これまでミニ企画展示等によりスタッフの手作り展示を実施してきましたが、センターが来館者のみなさまにより親しみをもって頂けるよう、展示ロビーの改修工事を実施しました。このたび工事が完了し、リニューアルしましたので紹介します。

● コルクボード

従来は展示ロビーの壁面に直接展示物を貼り付けていました。今回展示ロビーの主要な壁面スペースに、縁材付



きコルク材ボードを新たに設置しました。

これにより、展示物の設置・

取り外しが容易になるとともに、テーマ毎にまとまりのある展示を行うことが出来るようになりました。また、ピクチャーレールの増設により天井からのつり下げ展示可能な箇所が増加しました。

● 標本展示用什器

センターで所蔵しているほ乳類の毛皮標本等、見学者が触れることのできる標本は従来適切な展示場所がありませんでした。そこで、ドイツ箱も収納可能な標本展示用の



什器を新たに設置しました。これにより、従来は常設展示室の希少種剥製

展示コーナーのみ設置可能であった標本類が、展示ロビーに展示できるようになり、標本が来館者にとってより身近なものとなりました。

● タッチパネル



タッチパネルの設置カウンターを丸みのあるデザインに改装しました。

タッチパネルの内容及び機能はこれまでどおりですが、機器類がすっきり収納され、映像観賞用の椅子も設置されましたので、これまでより気楽に映像鑑賞が出来るようになりました。

● くつろぎスペース

展示ロビー最奥の自動販売機コーナー前に、従来はソファを設置して休憩スペースを設けていましたが、今



回の改装により床面にクッション材を敷き詰め、靴を脱いで上がれるく

つろびスペースとしました。また、フクロウ文庫を壁際に移動したことにより、展示ロビー中央部にソファを集中的に設置でき、全体的に休憩できる場所が増加しました。

リニューアルにより、ゆったりと館内を見学できるようになった生物多様性センター。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

生物多様性センターの休日開館は10月をもって終了いたしました。休日、遊びに来てくれたみんなありがとう。11月～4月末までは平日9～17時の開館となります。



人の動き(2006年7月～11月)

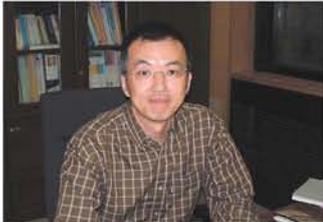
〈転出〉

センター長 北沢 克巳 (総合政策局環境教育推進室へ)

〈転入〉

センター長 東海林克彦 (自然環境局総務課
動物愛護管理室より)

7月19日付で生物多様性センター長に任命されました東海林と申します。よろしくお願い致します。



さて、皆様におかれましては既にご存知のことと思いますが、生物多様性センターは、生物多様性保全施策のより一層の推進に貢献するための中核的拠点施設たることをね

らいとして、「調査」「情報」「標本資料」「普及啓発」の4つの業務を、環境省職員が常駐して総合的に実施している施設です。月日の流れは早いもので、センターが環境省自然環境局の一機関として設置されてから約9年になりますが、これまでに収集・整理されてきたデータは、その質量ともに膨大なものになってきています。また、自然環境の質的变化を迅速に捉えようとするモニタリング事業も本格的に稼働し始めています。

もとより微力ではありますが、この蓄積されてきた自然環境データが、行政機関における自然環境保全施策の企画立案や研究機関における調査研究の実施等に様々な形でより一層活用されるように、そのインターフェイスの開発等も含めて努力して参りたいと考えております。今後とも、引き続き皆様のご支援・ご指導等をたまわりますようお願い申し上げます。

東海林克彦

センター動き(2006年7月～11月)

| | |
|-------------|----------------------------|
| 7/7～7/13 | GIS講習会 |
| 7/15 | 夜のいきもの探検隊～水辺のヒミツ～ |
| 7/25 | 基礎調査検討会 |
| 8/5 | 大臣視察 |
| 7/31～8/7 | 学生インターン実習 |
| 8/6 | 生物多様性まつり |
| 8/24 | 第1回生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会 |
| 8/29 | 中央環境審議会視察 |
| 9/23 | はらっぱむしむし探偵団 |
| 9/25 | 植生調査GIS部会 |
| 9/26 | 第2回生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会 |
| 10/11 | OBIS検討会 |
| 10/3～11/17 | JICA「生物多様性情報システム」研修 |
| 10/12 | 植生調査ブロック調査会議(北陸) |
| 10/16 | 植生調査ブロック調査会議(北海道) |
| 10/22 | どんぐりVS松ぼっくり～あなたはどっちが“木の实”～ |
| 10/27 | 植生調査ブロック調査会議(中国・四国) |
| 10/29 | モニ1000シンポジウム |
| 10/30 | GBIFシンポ |
| 11/1 | 総合環境モニタリング調査第1回検討会 |
| 11/1 | 環境情報戦略検討会 |
| 11/2 | 第3回生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会 |
| 11/7 | 入札(トランス改修工事) |
| 11/9 | 植生調査ブロック調査会議(東北・中部) |
| 11/11～11/12 | モニ1000シギチ検討会・交流会 |
| 11/14 | 入札(ガンカモ調査) |
| 11/14 | 植生調査ブロック調査会議(九州) |
| 11/21 | 植生調査ブロック調査会議(近畿) |

トピックス

去る8月5日、小池百合子前環境大臣は山梨県側の富士山5合目付近で実施された「8・5富士山クリーン作戦2006」に参加された後、生物多様性センターを視察されました。生物多様性センターではセンター業務概要について説明を受け、標本収蔵庫や執務室などを視察されました。また翌6日の「生物多様性まつり2006」の準備に奔走するセンター職員、関係団体やボランティア、学生インターンを激励されました。



案内図



発行：環境省自然環境局生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
 電話：0555-72-6031 FAX：0555-72-6032
 URL：http://www.biodic.go.jp/
 e-mail：newsman@biodic.go.jp

※ニュースレターは下記URLからもご覧頂けます。
 URL：http://www.biodic.go.jp/center/news/